

## 第2部：パネルディスカッション

### 【駒澤大学名誉教授 大山 礼子 氏】

皆様改めまして、こんにちは。これからディスカッション、とても時間が限られていますので、先ほどのご報告もちょっとせつかく内容豊かだったので、かなり窮屈で申し訳なかったですけれども、なるべく効率的に議論を進めていきたいと思います。

まずは、ディスカッションからご参加いただけるお二方の先生方から短めに、ご自分の自己紹介プラス地方議会についてどんな風に思われているか、ちょっとご感想を伺いたいと思います。まず出雲先生、お願いします。

### 【明治大学専門職大学院ガバナンス研究科専任教授 出雲 明子 氏】

皆さんこんにちは。先ほどご紹介いただきました出雲と申します。私自身の研究を少し紹介しながら、私の紹介をさせていただくと、公務員の女性活躍というテーマで研究しております。この、議会の女性活躍と公務員の女性活躍は共通する課題もあると思っております。例えば、女性の公務員の方が管理職になるためには周囲の励ましや上司の支援といったことが必要であるといったようなことは、議会にも共通する課題だと思っております。そうした公務と議会が共に地域社会を支えるというような観点から発言をさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

### 【大山氏】

ありがとうございました。上村先生お願いします。

### 【関西学院大学経済学部教授 上村 敏之 氏】

関西学院大学の上村です。これから座って話したいと思います。関西以外ではよく間違えられるのですが、関西（かんさい）学院大学じゃなくて関西（かんせい）学院大学です。兵庫県西宮にある大学です。私の専門ですが、経済学をベースとした財政学で、特に税制を研究しています。大学で勤める他、関西の複数の地方自治体で行財政運営に関わっています。特に行政改革に関わっています。

本日のシンポジウムのテーマは、「誰もが参画できる議会を目指して」とありますけれども、その背景にある問題は、地方議会のなり手不足だと思います。これはとても深刻な問題だと思っております。大学で教えていて思うことなのですが、将来的に地方議員になることのイメージを持つ学生がほとんどいないように思っています。しかし、それでも生まれて育った町に何かできないかと考えている学生はある程度いるはずなので、一旦、民間企業に就職しても、地元を離れても、地方議員が将来的な選択肢になるというにはどうすればいいのかということをごすね、皆さんと一緒に考えたいと思います。

今日は先ほど、事例の報告を聞いていて思ったのですが、キーワードはやっぱりロールモデルとあと住民参画かなと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

### 【大山氏】

ありがとうございました。それではこれからディスカッションに移りたいと思いますけれども、お三方のご報告、それぞれ内容でどこからやったらいいかってことなのですが、それぞれ関係はしているのですが、少しずつ色合いが違っていたかと思っております。それで、少し論点を整理いたしまして、まずは、住民と議会の距離を縮める上で1番大事なのは、やはり自分たちの代表だと思える人が議員になっているということがあろう

かと思いますので、まずその問題、女性議員を中心としてということで、安居さんのご報告を中心に少し、最初議論していきたいと思います。まずは、出雲先生にちょっと口火を切っていただきたいと思います。よろしくお願いします。

### 【出雲氏】

ありがとうございます。先ほど、紹介として申し上げましたように、公務の女性活躍では、女性のなり手が少ないということが問題になっています。公務では女性職員がおられるにも関わらず、管理職にはなりたくないであるとか、登用されないという問題があります。

地方議員の方は、女性の方そのものがおられないってところからのスタートになりますので、環境は少し異なるのですけれども、女性が行政、政治分野で活躍する上では、こういう女性の方が活躍しておられるといった、今お話がありましたロールモデルの存在であるとか、女性の中には自信がないとか、そういう経験がないので、自分は何れないという風に、最初から思ってしまうってところもあるかと思いますので、こういったものがあるよということを周囲が励ましたり、示したりするようなこと、少し学術的に捉えると、ネットワークを作る、ネットワークの中でそのなり手に関して口火を切っていくという風な、そういう考え方があります。先ほど安居議長がご説明しておられたような、活躍を示していくというのが非常に大事だという風に思っております。

他方で、あまりにも活躍が目立つと言ったら変な言い方ですが、あまりにも大変そうだとということになりますと、自分は今例えば子育て中であるから自分はできないという、そういうネガティブな印象を与えることもあろうかと思います。この辺りが女性活躍の難しさであると思っているのですけれども、自分がその生活も両立させながら議員活動ができるということを示していくことが重要であるという風に考えております。

以上最初の発言とさせていただきます。

### 【大山氏】

ありがとうございます。別に女性に限ったことではないですけれども、色々と違う階層の方、違う例えば若い方であるとか、サラリーマンの方であるとか、そういう多様な方が議員として参画していくってことは、議会を遠い存在でなくすために非常に重要だと思うんですけれども、女性議員を増やすというのは、1丁目1番地、1番取りかかりやすいところかと思うんですね。他の方がいいがでしょうか。どなたでも、どなたからでも。はい、どうぞ。

### 【上村氏】

はい。石川県議会の安居議長からですね、男女共同参画の推進について、お話いただいたのですけれども、非常に分かりやすく紹介していただいたと思います。そこで私からちょっとお聞きしたいのですけれども、女性の政治参加への障壁について様々な要因があると思うのですが、最大のボトルネックはですね、一体何だと思われませんか。ひょっとして複合的なものかもしれませんけど、これが非常に最大の問題ですということがあれば、教えていただきたいと思います。

### 【石川県議会議長 安居 知世 氏】

ありがとうございます。女性議員が議員になろうと思った時の障壁、これあの男女関係ないと思うのですけれども、やっぱりまずはその家族の同意を得るのが、これ女性

でも大変で男性でもですね、きっと結婚してらっしゃる方は、妻というか奥様の同意を得ることが大変なんでしょうけど、女性の場合はっきり言って夫の同意を得るというのは、女性から同意を得るよりも大変だと私は思っています。まずはここが1つ。

あともう1つは、皆さんよくアンコンシャス・バイアスっておっしゃいますけど、私は決して全然アンコンシャスじゃなくって、女性に対しては、政治という意味では普通にまだまだバイアスがかかっていると思っています。私は金沢から出ているので16分の1として出るので立候補ができますが、仮に地方の方で県議会議員一人区っていっぱいあるのですよね。じゃあ石川県の一人区で今まで女性が出たか、当選したかって全然立候補もしてないし出てもないのですよ。やっぱり何人かいるうちの1人なら女でもいいけど、おらが町の県議会議員1人しかいないのだったら、そこはやっぱり男でしっかりと仕事してもらえなきゃいけないだろうというような、私はバイアスがかかっているのじゃないかなという風に思っています。

やっぱりこの辺をまず皆様の中から、おらが町の代表、女でもしっかりと働けるのだから女でもいいよと言って、みんながその議員をまず上げていくことに意識を持っていただくということも私は大事なんじゃないかなと思っていますし、怒られるかもしれませんが、一人区を解消してですね、最低2人以上選べるというような制度改革もかしたらあるのかなという風に考えています。

### 【大山氏】

はい、ありがとうございます。私も一人区はちょっと問題だと思っていますけれども、市町村の議会はそうではなくて全地域から大選挙区ですよね。そういう中で女性とか若者を支援するということが何かお考えがありましたら、菅原さん、天野さんいかがでしょうか。

### 【奥州市議会議長 菅原 由和 氏】

はい。私の方から。特に我々議会ではですね、先ほどなり手不足の関係で、これからということをお話させていただいたのですが、現状で今やっていることとすれば、オンラインでの委員会参加ですとか、そういう制度を設けたのですが、このきっかけとなったのが、やっぱりコロナ感染症がオンラインのきっかけだったのですけども、それと合わせて、やっぱり子育てとか介護とかでもオンライン会議をしてもいいよってというような会議規則を改正して、一応これ女性に限らないかもしれませんが、女性も比較的参画できるような制度は設けたってところはありますし、また傍聴席についても、今まで子どもを連れての傍聴席には入れなかったんですけども、その規定も撤廃して、もうどうぞ子どもも連れて来てくださいということにしていますし、もし色々、泣いたりした時には別室を設けて、そこにテレビを設けてですね、移ってもらうというような形で、女性も比較的傍聴、議会を見に来られるような、そういう体制というかですね、環境整備は整えたってところでございます。

### 【大山氏】

本当に奥州市議会、先ほど資料拝見したらもうDXがすごいのですよね。ですから、どうやってこうなったのか後でまた聞かせていただきたいと思いますけれども、それこそその国だと、傍聴だけじゃなくて、議員さんが子供抱えて連れてきて議場に入ったりしていますよね。

だからそういう、もうちょっと親しみやすい議会像みたいのを発信していくことも必要

かと思います。天野さんの方からは、主権者教育という意味でもうちょっと女性、特に女子中学生、女子高校生との関わり何かございましたら一言お願いしたいのですけども。

**【前・長野県宮田村議会議長 天野 早人 氏】**

はい。特にその女性の方を多くしようという風に意識をしてやっていることはないのですが、なぜか結果的に「むらびと会議」は女性が多く手を挙げてくる、あるいは主権者教育で参加してくる中学生、高校生には、女性が比較的多いってということがあります。これはなぜなのか分からないのですが、そこを入口にして、次のことを考えていきたいなということは思っています。ちょっと答えになっているかどうか分かりませんが、以上です。

**【大山氏】**

今のお話すごく興味深いですね。「むらびと会議」に女性の方が積極的だというのは面白いと思うのですけども、その辺は出雲さんいかがですか。

**【出雲氏】**

そういった意思決定、またはそのワークショップ会議などへの参加は女性が非常に多いというのは、今ご紹介いただいた例だけではなくて、他市などでも見られることかと思えます。PTAとかですね、各種その既存の組織に所属しておられるっていう方が、その流れで参加していらっしゃるってこともあるかと思えますし、昼間時間があるっていうような観点での参加もあるかと思えます。

ただしこのような参加が、いざ議員になるという話になると、少しその関係性が断絶していると言いますか、あまり日常的な市政への参画が直ちに議員へなり手という問題には結びつかないという風に思っております、市政に関心はあるし、参画もしているけれども議会ではないという、そういった問題があるという風に思っております。

ですから、市政への参画を活発にするそのことも大事だと思うのですが、なぜそこが関わり合いがなくなっているのかという、構造って言うのでしょうか、そういうことを理解することが重要だと考えています。

**【大山氏】**

私も以前、地方制度調査会の出張で、地方ですごく頑張ってもらってるNPOの若い方と話したのですけど、なさっている方はやっていることはすごく地方議会の役割と重なっているのですよね。ですけど、その方たちは、そしたら議会議員になったらいかがですかって言ったら、全然そんなこと考えたこともない、びっくりされていて、その辺がもうちょっとうまく繋がってくるといいかなと思うのですけれども、その辺はどなたかがでしょうか。

**【上村氏】**

はい。ありがとうございます。これは女性に限ったことではないのですけれども、若い時から地方議員になるっていう選択肢があまりないというかですね、私大学で教えているわけですけど、先ほど私冒頭に申し上げたように、私の大学は特にそうかもしれませんが、民間企業に入るっていうことが前提になっていてですね、それであまり地方議員との接点はほとんどないし、なので将来的にその地方に戻るっていうこともあったとしても、地方議員になるっていう選択肢はまず持ってないのですよね。

なので、少し前に、多分5月だったと思うのですが、私の知り合いの市議会議員さんに、私のゼミに来ていただいてお話をさせていただく、ゼミ生とお話をさせていただく機会がありました。その時に良かったのは、市議会議員の方々も、大学生と話す機会があった、政策について話す機会があった。意外だったのは、学生がこういう生き方あるのだということです、こういう気づきがあったと。だいたい市議会議員さんは民間企業に入って、それから地元に戻って市議になられているのですが、そういう生き方があるのだということに先生初めて知りましたという、こういう気づきがあったのです。

こういうチャンスを、これも主権者教育的なものだと思うのですが、こういうチャンスをいかに作っていくかが結構大事なんじゃないかなとは思ったりします。以上です。

### 【大山氏】

安居さんいかがですか。

### 【安居氏】

そうですね、実は私、市議会議員になった時も私自民党ってところの所属なのですが、実はずっと女性議員がいなくて、金沢市議会には女性の議員がいたのですが、例えば公明党さんとか、共産党さんとか、社民党さんとか組織でしっかりと体制が整っていて、ある意味そういうバックアップを受けて上がってきている方という方はいたんですが、ご案内の通り、自民党って自分党みたいところで、選挙する時は自分でやって、自分で上がってねっていう感じなのです。そうとなかなか女性は全てを自分でやって、自分で上がってねっていうと、なかなか親戚とか親とかが議員じゃなかったら地盤、いわゆる地盤、看板、鞆がなかったら、なかなか出られないみたいところがあって、それで出にくいんじゃないかなという風に私は思っています。

ただそういう地盤、看板、鞆、何もなしでこの安居知世というのがいきなり市議会議員になって県議会議員になったことで、実は金沢市議会でも石川県議会でも若めの女性が立候補されるようになって実際に当選されるようになりました。別に、自分で言うのも変なのですが、やっぱりこういう風に何もしがらみのない、人がですね、なって、議員活動やっている姿を見せることが、ああ、あの人ができるのだしたら私もできるかもという風に思ってもらえる1つのきっかけではないかなという風に私は思っています。

### 【大山氏】

まさに安居さんはロールモデルでいらっしゃると思うのですが、本当ですよ。そういう若い方とか女性とかが議員になっていらっしゃるのを見ると、あ、私もやってみようかなという、そういう効果があるかなと思います。

本当に今の選挙、日本の選挙っていうのは、地方でも国会でも全部個人戦なのです。私も、自民党の県連に話を聞きに行ったことがあるのですが、女性の方も大歓迎ですっていらっしゃるのですが、そんな歓迎して待っているだけじゃダメですよって申し上げるのだけでも、やっぱりなかなか手を挙げて出てきてくださいってことになると、今までと同じようなパターンの方しか出てこないというのがあるのだと思います。そこを何とかしていくということが、これからの課題かなと思います。

そろそろ、次の話題に移りたいと思いますけれども、特に奥州市議会のお話がすごく詳しくありましたけれども、市民の意見をどうやって政策決定過程に反映させて政策のサイクルを作っていくか、それから地方議会の仕事って皆さんそれこそいい仕事されていると

思うのですけれども、見えないとやっていることにならないのですよね。だからそれをどうやって「見える化」していくかってことはすごく重要だと思いますので、その辺の取組、今日はちょっと時間がなくて十分お話いただけなかったかもしれませんが、奥州市議会の取組をご覧になって、どなたからでも何かご意見があればお願いいたします。

### 【上村氏】

はい。ありがとうございます。政策決定過程と、その情報交換について、奥州市議会の議会改革は本当に素晴らしいなと思っています。政策決定会議のタイミングを工夫されているということと、あと計画の組み込みの制度を高めているということですね。あとそれを「見える化」して、住民に対して情報を発信されているということは、これはなかなかないことだと思っています。

それで菅原議長に質問したいのですが、資料にですね、当局計画の組込戦略と書いてんですけど、これ要は、議会による政策実現の可能性を高めて「見える化」すると、極めて有効だと思っています。その上で本来の目的というのは、この計画の組み込みじゃなくて、その計画が実施されて意図通りの成果を上げていくのか、そこは肝心じゃないかと思っているのですが、そこで質問ですが、計画に組み込まれた政策、政策が実行されて意図通りの成果を上げているかどうかの評価ですね、そこはどのようにされているのかっていうのが1点目です。

さらに2点目ですけども、この取組がなされるようになったそのきっかけとかですかね、背景を知りたいです。誰がどのようにこの主導的にですね、導いてこういうことやられているのかを教えてください。以上です。

### 【菅原氏】

はい、ありがとうございます。では、2つ目の方からちょっとお話をさせていただきたいと思います。

私ども奥州市議会の基本条例ですね、議会基本条例の制定っていうのが平成19年に取りかかりまして、平成22年11月に施行されました。全国で初めて、その基本条例ができた北海道栗山町議会、確か平成18年頃だったと思いますので、割と早い時期にその基本条例が制定されたのだと思っておりますので、割とその時点からですね、議会の改革に対する意識っていうのはあったのかなと思っています。

ただこの10年間これまでですね、1度も検証がされてこなかったという実態がありましたので、なかなかその条例通りにですね、取組ができてこなかったというのはあったのですが、やっぱりそこでちょっと要となる方がおりまして、早稲田大学のマニフェスト研究所にちょっと関わっている議員さんがいらっしゃったものですから、その方が基本条例の制定にも関わった。その後、当市議会では議会改革検討委員会という組織がございまして、その委員長もされていたっていうことで、取っ掛かりは先ほどご紹介したタブレット端末の導入ということがありました。

その改革が、その地点から少しずつ動き出したっていうことなのですが、実はですね、県内の市民オンブズマンが、県内33市町村プラス県で34団体で情報公開ランキングっていうのを公開したんですね。

その時に奥州市というのが下から数えて3番目ぐらいだったんですよ、それって市と議会の情報公開度を合わせたランキングだったのですが、どうも議会の情報公開がうんと低くて足を引っ張ってワーストになっちゃったっていう経過があって、これは駄目だということで議会が少しずつちょっと頑張っていこうぜっていうことで、情報公開から少し

改革が始まったというような流れでありました。

また、政策提言についてはですね、議会報告会っていう形で、不特定多数の方々に皆さんから来てもらって意見をもらうのですが、それをまとめて議会の中で報告をすることはするのですが、それ以上のこういう行先がなかったのです、仕組みがなかったんですね。

だからちょっとこれは何とかしなきゃいけないっていうこともあったし、それから毎年やっている視察とかもですね、行きっぱなしでどこにもなんか生かされていないよねっていうのがあって、少し委員会、常任委員会の強化をしていきたいと思いますっていうようなことが、取っ掛かりでありまして、そこから提言の取組が始まったということで、政策サイクルのガイドラインも作ったのですが、それも後付けでありまして、まずはやってみようということで、始まったことがきっかけということであります。

何か実現しているかっていうことなのですけども、これはですね、1つ例を上げれば、第3次バス交通計画っていう計画があったのですが、当時ですね、その計画以前の前に公共交通の空白地域というのがやっぱりうちの中山間地域多いものですから、やっぱりそこで地域の皆さんの足っていうのが、今ちょっとバスの運転士さんいなくて、公共交通がちょっと衰退してきているというような状況の中で、地域の中でその足の確保をしなきゃいけないよねっていうのはやっぱり市民の皆さんの声があったので、であればこの計画っていうのはちょうど切り替えの時期だったものですからここに照準を合わせて提言をしたということで、先ほど先生がおっしゃった通り、計画ありきっていうことじゃなくてやっぱり地域の課題があって、それにたまたまこの計画があったっていうことで、それに組み込んでいくことにしたんですけども、いわゆる自家用有償旅客運送というですね、住民組織による地区内交通の運行っていうのを実現したということで、まさに市民の声が形になったという、実例かなというふうに思っております。

### 【大山氏】

ありがとうございます。本当に奥州市議会いろんなことで意欲的に取り組んでいらして素晴らしいと思うのですが、私が伺いたいのは特にDXですね。日本全体デジタル敗戦とか言われているぐらいで、なかなか進まないところが多いと思うのですよ。

特に議会も高齢男性が多いから、未だにFAX使っていたり、国会議員もしますもので、そういう中でどうやってこれだけのDX化を推進されたのかって、もし何かありましたら願いたいします。

### 【菅原氏】

そうですね。やっぱりタブレット端末導入する時ですね、やっぱり結構な先輩議員の皆さんからは、いやこんなの使えないよっていうようなことはありましたけれども、まず使ってみましょうよということでですね、少しずつやり始めた。でもやっぱり半年、1年経つと結構皆さんお使いになられていたということもありますし、それがきっかけだったということもありますし、あとは先ほど申し上げたようなやっぱり情報公開って大事だよなっていうことで、そう言うやっぱりSNSっていうのも少しずつ使い始めたっていうこと。

それとやっぱり議員の中にもやっぱり若手の議員でそっちのDXなんか明るい議員もいましたし、あとやっぱり事務局ですかね。事務局もやっぱりそういったところに専門的な人間もおりましたので、積極的に活用していきたいと思いますっていうような話もあったし、あとはたまたまその議場システムっていうものの更新時期でもありましたので、そこに合わせて

ですね、もう一気にやっちゃったっていう感じですかね。誰かやっぱり明るい方がいて、やりましょうっていうような声かけが少しずつ広がっていくような感じがありますけど。

### 【大山氏】

やっぱり議長さんのリーダーシップっていうのは大事だったと思うのですけれども、もう1つはその議会事務局ですよ。議会事務局がどうしても弱体で、あまり専門人材がないっていうようなところが多いと思うのですけれども、その辺が非常にうまくいったということなのではなかね。

### 【菅原氏】

実はちょっとうち議会事務局職員の数がやっぱり他と比べると少ないのかなって思っています、以前もこの政策提言始めるあたりなんかは、それこそいわゆる議会事務局の専門職員じゃなくて、併任書記みたいな形で他の部署と兼務で来てもらっているような時期もあったりして、やっぱそれじゃダメだということで、毎年要望をですね、重ねてきて一人追加をしてもらったりってことありますけれど、やっぱりこれだけ政策提言とかの取組とかが始まっちゃうと、もう今の人員でもやっぱり足りないと思っておりましたので、やっぱり議会事務局の強化っていうのは非常に大事だなというのは実感をしていますね。

### 【大山氏】

はい。その通りだと思います。市町村ではなかなか難しいと思うのですけども、例えば県単位でそういう人材支援みたいなのができるといいなと思っているのですけどね。奥州市議会の試みをご覧になって、天野さん、安居さん、何かございましたらどうぞご質問でも。

### 【安居氏】

ありがとうございます。石川県議会でも委員会はオンライン出席が可能になってはいるのですが、資料は基本的に全部、オンラインのデータで送られてくることになります。希望するものに関しては、ペーパーでもということになっているのですけれども、基本的に昔に比べると随分DX化が進んでいるなという風には考えていますが、これはDXを使える方は使いこなしてらっしゃるのですが、DXが得意ではない方に対してはペーパー対応もさせていただいております、今は議会のハイブリッド状態かなという風に考えています。

それから、情報化時代の方たちが議員になっていけば進んでいくのかなという風に考えています。

議会事務局の強化に関しては、議員自身がしっかりと事務局に対してこういうこととして欲しいというのを伝えて、事務局の人たちにも頑張ってもらう。こういう相互のボールのやり取りがないと強化は図れないと思うので、ここは議会事務局の強化は議員の仕事の1つだと考えています。

### 【大山氏】

なるほど。まず議員自身がやりたいことがはっきりしてないとなかなか事務局もついてきて動いてくれないですね。天野さんいかがですか。

### 【天野氏】

うちは議会事務局2人しかいませんのでね。しかも兼務ですから、つい先日まで交通安全とかも兼務をしているような状態でやっています。議員もうちは12人しかいませんから、誰かにやってくれればいいってことじゃ全然進まないのが現状です。

特別委員会とかで、基本的なことを決めたりとか、あるいは正副議長がきちっと方針をぶれずに通すってことは大事ですけども、全員の議員がうちではそれぞれ役割を担ってもらって、例えばそのいくつかの条例等も作ったということをお話しましたが、それらは基本的には議員が自分たちで勉強して作ると、で、それを議会事務局にこんな風を作って見たんだけどどうかねというサポートをしてもらって、そんなようなやり方をしてきたつもりですし、そういう風にしないとなかなか進まなかったというのはあります。

あと色々あまり任せすぎるとですね、議員が色々やんなくなっちゃうってのもありますよ。事務局に任せて案が出てくればもう何もなくて、それをただ会議に出すってことになっちゃいますので、そうじゃない取組が必要じゃないかなという風に思うんですが、その辺りはどうなのですかね。奥州市さんでは、結構議員の皆さんが積極的に色々作ったりする作業に関わるということはあるのでしょうか。

### 【菅原氏】

そうですね、本当になんだろう、取りまとめみたいな感じのものは、事務局ですることありますけど、実際にその政策を作ったり検討したりというのは、実際に議員が自らやっています。やらないとなんか本当に事務局職員に無理をかけるっていう感じで、我々の当初 SNS 入れた時もですね、我々議員の方からこれやりたいっていう話をしたら、もう事務局手一杯だからそれできませんって言われて、やるなら議員さんやってくださいって言われて、ちょうど私、当時広報の委員長やっていたもんですから。なので、もう議員自らがやるというような姿勢を取らないとやっぱり事務局職員もですね、一緒になってやってくれないのかなと思っています。

### 【大山氏】

先ほど、早稲田のマニフェスト研究所に関わっている議員さんがいらっしゃったってことをお話いただきましたけども、やっぱり議員さんの中にもそういうデジタル人材みたいな方がお1人でもいらっしゃると変わりますよね。

### 【菅原氏】

やっぱりそうだと思います。やっぱりデジタルに限らないかもしれませんが、やっぱりこれ変えてかなきゃいけないよとか、そういうやっぱり意識を持った方がいらっしゃって、で、実際に改革を手掛けて実現したっていうことになるって、またさらにそれが他の議員の皆さんの意識にもつながっていくのかなという風には思っています。

### 【大山氏】

そうしますと、最初の論点の色々な多様な人材にどうやって参画していただくか、議員の新陳代謝みたいなことですよ。それも改革を進める上で重要なんじゃないかなという風

に思います。出雲さん何かありますか。

### 【出雲氏】

はい。先ほどの説明で政策立案、政策提言のサイクルをご説明いただいたのですけれども、4点目に議員間の討議という話題を提供していただいています。

市の当局と議会議員とのやり取りというのは、制度化されている仕組みでもありますし、市長に問題点を提起するとかですね、そういった方向性は理解できるし、活発にしなければいけないということもあるのだと思うのですが、その議会の中での討議をより「見える化」したり、充実させていく、また今回はこの方向性が選択されていたけれども、将来の課題としてはこういうことがあるので、今後検討していきたいといったような、市当局が選んだ政策ではないことの課題についても議会で共有していくといったような政策提言に向けた準備って言うのでしょうか、そうしたものが議員を育成したり、政策提言の機能を強くするという風に考えるのですが、この意義、課題についてご説明いただきたいと思いますがいかがでしょうか。

### 【菅原氏】

議員間討議の関係ですね。はい、これガイドラインを作ったのですが、その経過ってというのがやっぱり、ある大きな重要案件、市の重要案件があった時に、議会全体でその議員間討議っていうのをやったことがあったのですが、全然議員間討議じゃなかったんですよ。いわゆる討論だったんですね。私は賛成だ、反対だっていうような。そういう空中戦のような感じばかりで何もまとまるようなことがなかったので、やっぱりこれって議員間討議じゃないよねっていうのはずっと疑問を持っていました。

そこでやっぱり制度化する必要があるのかなというふうに思いまして、この議員間討議っていうのはやっぱり3段階あって、やっぱり最初はいろんな課題整理とか、共有するというのが大事だと思いますので、まずは対話というステージで、次はそれを、その課題とか論点をどうしていきましょうかという議論というステージで、最終的に討論という3つのステージというので我々はこういう議員間討議のガイドラインというものを作ったということでありました。

大きく我々これまで2回ぐらいしか、2回というか、その案件は2つぐらいしかやらないのですが、重要案件ですね、市中心部にあった商業施設が撤退するっていうようなことを、それを市が買うとか買わないとかって話、あとは今病院の関係ですね、建てる建てないの話。この大きな案件について議員間討議という制度を取り入れております。

それから、いろんな場面ですね、常任委員会の政策提言を作る際にも、議員間討議っていうのをやってもらって、割とこの少人数単位のワールド・カフェ方式っていうのを我々も使うようにしておりました。

なかなかやっぱりさっきも言った通り、全体でやっちゃうと討論みたいな話にしかならないので、4～5名のグループに分けて、本当にワールド・カフェっていうぐらいですから、ざっくばらんな話をすることによって色々議論が深まっていくというような仕組みを我々は作っておりました。そんな感じでよかったですか。質問答えられていましたか。

### 【大山氏】

ありがとうございます。他の方いかがでしょうか。どうぞ。

### 【上村氏】

はい。また聞きたいのですけれども、今の話だと大学の少人数授業みたいな感じの議論をして、それで、要はディスカッションしてまとめてって感じで、ただ議員さんってバックボーンがですね、政党から出ているとかですね、もうそもそもその政策はなんかもうこっちなのだっていう風になんか締めつけじゃないけれど、もう方針が決まっている場合とかもなんかあったりするような気がするのですけれど、そういったところも、要は無しにして、もう本当に白紙に絵を描く形で議論っていうのはできるんでしょうか。

### 【菅原氏】

極論から言うとおそらく先生言ったとおり、最終的にそのような形にしなければならないと思うのですが、ただそれをもういきなりやっちゃうとそういうことにしなければならないので、まずは本当に皆さんの課題共有とか、あとはこの人がどう考えているのかっていうのをお互いに理解をしましょうというところからやっぱり積み重ねていく必要があるのかなと思っていますので、まずは対話、議論、最終的にはやっぱりそれぞれのバックボーンのあるところにはやっぱりあると思うので、それは討論で最終的には戦わせるという、本来はその議員間討議っていうものは、合意形成を図っていくっていうようなことなのかもしれないのですが、私的にはそこを本当は求めてはいきたいのだけでも、なかなかやっぱりそこっていうのは理想論でなかなか難しいのかなと思っていますので、段階を踏まえればやっぱり、踏まえていくことが大事なのかなというふうに思っていますね。

### 【大山氏】

今おっしゃったことは、住民に見えるっていう意味でもすごく大事だと思うのですよね。最終的に賛成反対だけの議論になると、何が論点なのかよくわからないので、その前段階みたいのが見られるとか、記録に残るとかっていうことがあるとこういうことやっているんだっていうイメージも湧きやすいと思うのですごく大事かなと思います。

### 【菅原氏】

まさにその通りですね、私たちの狙いというのもそこで、これまでだと本当にその案件に対して賛成反対というのしかおそらく新聞なり議会だよりに載らなかった。その経過というのが市民の皆さんやっぱり分からなかったというので、その議員間討議の制度化というのはやっぱりそこがあって、どういうプロセスを経てこういう結果になったのかということをやったり市民の皆さんにもその経過も含めて「見える化」というかお知らせをするというのがやっぱり議会の役割だし責任なのかなというふうに思うことからやっぱりこういうことも始めたということですね。

### 【大山氏】

県議会レベルではいかがでしょうか。そういう形の何かなさっていますか。

### 【安居氏】

はい、私も今ちょっと勉強になったのですけれども、石川県議会では基本的に1年に1本、議会提案条例、いわゆる議員が提案する条例というものを石川県の方に通すように今やらせていただいています。議会提案条例なのでいろんな会派がいるのですけれども、基本的には全会一致を目指しているので、条例にこういう文言入れようという提案が沢山出てくる中で、立場が違う方もいらっしゃるから、そこは押して引いて、第1会派だけ

の意見が通ることがないように調整をされているというのは、石川県議会のいい習わしだなと思っています。

ただ、条例のテーマ設定については、第1会派の提案が通りやすいです。ただ今回、お話を伺って、私たちがこの条例を作る過程の「見える化」ということはしてきませんでした。いきなりパブコメになっていたので、パブコメを出す段階で設置委員会の中で交わされた議論を紹介することで、より一層皆さんに関心を持ってもらえるのかなと思いましたし、条例を作る段階でいろんな団体、県民の皆さんに来ていただいて一緒に討論させていただいているんですが、頂いた意見も一緒に載せると、より一層興味を持ってもらえるのかなと思ったので、これからも議会提案条例を出す時には、その見せ方にも工夫をさせていただこうかなと今日ちょっと学ばせていただきました。菅原さん、ありがとうございます。

### 【大山氏】

そうですね、せっかくなさるのだったら本当にもうちょっと見える化進めるとより効果がありますよね。

小さい町村、小規模の町村議会の場合はそもそも議員がやっていることはもうよく見えているのだと思うのですね。実は私、つい先週末に青ヶ島に行ってきました、本当にもう議員さんも村長さんも隣の人がやっているみたいな世界だったのですけれども、そこまで行かないにしても天野さん何かその「見える化」という、住民との関係について何かコメントがあれば。

### 【天野氏】

そうですね、私立場が変わりまして外に出たのですが、正直言って何をしているかなって思うんですよ。それはもう、うちは8,600人ぐらいいるので、小さいと言っても少し大きな方かもしれませんが、やっぱり議員が普段何しているかっていうのは、伝わっていないという実感はすごくあります。

それはすごく言われますし、あの議員何しているの。なんかケーブルテレビで見たら年に4回ぐらいなんか質問かなんかしているけど、後の時間何しているのみたいなことは言われるってことがあって、それじゃいけないってことで、さっきいくつかご紹介したような、少し議会のことを知ってもらうような取組をしなきゃいけないっていう風に一生懸命、今あえいでいるというか、創意工夫をしているというか、そんなような状態です。

### 【大山氏】

はい、ありがとうございます。私最後に主権者教育のお話をさせていただきたいと思っていたのですが、「むらびと会議」とかそちらの方に行きましたので、ちょっとあの、そもそもなり手不足の解消とか住民の側からも議会に近づいてきていただきたいですよね。そういった意味で主権者教育と非常に重要だと思うのですが、少しそちらのテーマの方に最後移りたいと思います。上村先生から行きますか。

### 【上村氏】

はい、まさに宮田村の前議長さんにお聞きしたいのですが、資料の3枚目に、素晴らしい言葉が書かれて、「議会は村民と共にある」というのが、すごく素晴らしいなと思って、やっぱり議会は住民と近いはずなのになぜか遠い存在になっているのではないかというのは、大山先生が冒頭多分言われた言葉だと思うのですが、やっぱり本来あるべき議

会と住民の関係を回復していくための動きを今、村議会でやられているのではないかなと思っています。

いろんな取組を今資料があるようにされているのですけれども、多面的にされていますが、いろんな取組がある中でどの取組が最も効果的かというですね、その成果があったと思われるかということについて、経験されているからこそですね、手応えがあるかどうかが多分分かると思うので、その点の情報提供をお願いしたいと思います。

それとですね、もう1つ誰がどのように主導的に動いて取組が実現しているのかをお聞きしたいです。なかなか人材のリソースとかも限られる中ですね、こういった動きがあったのかっていうことですね、これ実務的な話になると思うのですが、シンポジウムにいられている方々にもですね有益な情報になるのではないかなと思っています。以上です。

### 【天野氏】

最初の質問は主権者教育という面でということなのか。では、まず最初にどのようなリソースのことも含めてのお話であります。先ほどもちょっとお話したのですが、総力戦で議員がやるということしかないという風に思っています。

議員もそれぞれやっぱり得意分野があります。さっきもありました ICT に非常に強い議員もいらっしゃるし、色々文書を綺麗にまとめられる議員もいる、あるいはそのディスカッションの進行がすごくまい議員さんもいらっしゃるの、適材適所配置をする、外とやる時はですね、例えばあの基本条例作る時は外の行政とか、住民の皆さんでも結構やり取りが多かったので、そういう時にはベテランの議員さんに、是非、先生にお願いしたいと経験を是非先生の経験が必要だと頭を下げてですね、その方にトップになってもらってそこをまとめてもらうとかですね、そんなようなことが必要じゃないかなという風に思います。それがリソースのところですよ。

それともう1つは、議会だけでは分からないこともやっぱりありますんで、そういうのは、うちはもう積極的に大学の先生とかに色々聞きに行ったりとか、自分たちの中の知識にないものはもう外に行って知恵を借りてくる。あるいはちょっとこんなことで悩んでいるのだけれどもっていうのは、そういう専門の先生に相談するというのも時々あります。

あとは主権者教育のところということですが、年齢も色々幅広い主権者教育ってあると思うのですが、例えばその宮田の議会で色々やってきた取組を見て、私もやってみたいということで、今回女性の議員さんたちが手を上げてくださったりして、結局前改選は5人オーバの選挙になりました。

40代も4人出たのかな、というようなことで1つ1つ村民の皆さんに議会の活動を知ってもらう活動を地道につなげてくってというのは、直接的に本当にそこが決定打になったのかはちょっと不思議ではありますけれども、少なくともマスコミではそういう報道がされているし、本人たちもそのようにコメントをしていますので、少なからず成果はあったという風に思います。

あともう1つ面白いなと思っているのは、例えば議員の職場体験をした中学生が、高校に行ったら「むらびと会議」で自主的に応募してくるってこともあるのですよ。こういう風に繋がりが続いていけば、またこの先きっと何かプラスになるのではないかなという風なことを思っていますし、お父さんお母さんが何年前に「むらびと会議」に参加したのを見て、子供が高校になって私もなんか面白そうだからやってみたいわと言って参加する例も実はあります。

なんでそういう、なんかいくつものこのいろんな仕込みをやっていけば、だんだん繋が

っていくのかなという、あまりこの設計図があるわけじゃないんですけど、そういうような取組をしてきたところです。

### 【大山氏】

はい、やっぱり若い方も実際に見て議員さんたちが発言しているのを聞くと全然イメージ変わるのですよね。私のゼミの学生なんかでも、国会議員って何やっているのかわかんないなんて言っているのですけども、実際に国会議員の方に来ていただいて話聞いたり、見学に行ったりするとすごく考えが変わるので、是非その若い世代に情報公開して参加してもらおうの大事だと思うのですけれども、他の議会の方はいかがでしょうか。菅原さん何かありますか。

### 【菅原氏】

はい、我が議会で主権者教育として何をやっているのか今考えた時に、うちの広聴広報委員会がですね、議会だより、年4回の議会だよりができた段階で委員が2人ずつ手分けをして市内の高校にですね、議会だよりを持っていきまして、校長先生なり副校長先生とですね、対話をしてくるようですけど、何を喋っているか私も分かりませんが、議会のトピックス的なことを言って、ただ置いてくるだけじゃなくですね、お話してくると。

その中で議会傍聴どうでしょうかっていうお話もですね、問いかけさせていただきまして、実際に何校かの高校が傍聴に来ていただいたっていう経過がありまして、やっぱり終わった後にアンケート、その生徒さんたちからもらうんですけど、本当に自分のこの身近なことがこういうところで話し合われているんだっていうことを初めて分かったっていうことや、非常に感動したとか、びっくりしたっていうアンケートがあったり、あと毎回1人か2人はですね、是非議員になってみたいっていうような、子どもたちもいたりということで、それなりにやっぱり成果が上がっているのかなというふうに思っていますね。

### 【大山氏】

私も元々専門が議会なものですから、よその国の議会なんかも傍聴したりするんですけど、ノルウェーの議会で傍聴していたら、中学生ぐらいの団体が先生に連れられてぞろぞろ傍聴しに来たのですよね。日本の国会はちょっとなかなか難しいと思うのですけども、是非地方議会でそういった試みしていただくといいのではないかなと思います。安居さん、いかがでしょうか。

### 【安居氏】

はい、ありがとうございます。石川県議会では、小学4年生、5年生、6年生を対象に、議場に来て模擬議会を体験する「ふれあい親子県議会教室」を開催しています。

対象を小学生だけではなく、中学生、高校生まで広げたいと思って、私も提案をしたのですが、ハードルが沢山あり、実現されていないところであります。

ただ、他の県議会、市議会、町議会において主権者教育として高校生、大学生を対象に議会の活動を色々と発信しているという事例を議長会から伺いましたので、是非石川県議会事務局にもしっかり頑張ってもらって、もう1歩進んだ主権者教育ができるよう、私が議長の間頑張りたいと思っています。

### 【大山氏】

はい、期待しております。出雲さん、いかがですか、主権者教育について。

### 【出雲氏】

ありがとうございます。2点ご質問あるのですが、主権者教育を考えると学校との連携などが重要になるかと思います。先ほどハードルがあるとおっしゃっていたんですけども、学校がすごく勉強の方に忙しくて、なかなか時間を割けないといったこともあるのかもしれないし、学校にもこういった主権者教育という考えがあつて、議会の側でもあつて、それがなかなか一致しないという風なこともあるのかもしれない。学校と連携する上での課題を伺ってみたいと思います。

もう1つ主権者教育ということを見ると、学校の時に関心があつて、また自分自身が少し高齢になるとちょっと介護のことなんかも気になるので、議会に関心を持つかもしれませんが、その間の現役世代の方々がその議会から離れていくということがあると思います。忙しいというのもあるかと思いますが、忙しさを克服していく必要はあるのですが、現役世代の方々との関わりなどを中心に、どういうなり手にもつげていく目的もあるかもしれませんが伺いたいです。以上お願いします。ちょっとどの方ということではないのですが。

### 【大山氏】

はい、学校教育との連携と現役世代の主権者教育ということなのですが、どなたでも何かありましたらお願いいたします。

### 【安居氏】

私が課題として考えていることをお伝えさせていただくと、学校からは、政治と政党は別だけれども、政治的中立性を言われてしまって、政治を教えることと今いる議員との繋がりがみたくないことを混同されてしまうところがあります。議員が学校で政治を教えるのはなつていう風に言われることがあるのは事実です。

もう1つは、三重県はすごく頑張つてやっていると聞いたのですが、例えば石川県にも女性センターがあつて、女性に対して政治に関するセミナーを行おうと思つても、同じように政治と政党がミックスされてしまい、公共施設で政治的なことはできないんですよというふうに言われることが多いんですよ。だから行政も政治と政党的政治を分けて考えてもらえると、もっといろんなことが議会とか行政が主導してできるのになと私は思つています。

### 【大山氏】

はい、三重県ですといろんな会派からそれぞれ1人が代表で行くとか、色々工夫されているようですね。

あと私が思いつくのは、イギリスの国会なのですが、学校の先生の研修プログラムを夏にやっているのですよ、だからそういうことやるのもいいかもしれないなと思つています。

まだまだ何か盛り上がりかけているところであれなのですが、そろそろ締めの間になってきましたので、皆さんまだまだ言いたくないことがあると思いますが、それぞれ1~2分ぐらいで最終的なというか、ご感想というか伺いたいです。

では、こちらから順番でいいですか。上村さんから。

### 【上村氏】

はい、本日はですね、実りある話をお聞かせいただきましてありがとうございます。私

自身本当に勉強になりました。

先進的な取組を知るとというのは、勉強になるのは間違いないのですが、実際に取り組む場面になるとかなりハードルが高いことがあると思います。

私たちの地域の現場では、何が課題なのかっていうのはそれぞれに違うわけで、目的とあと手段が、ちゃんと適合するかはまた本当にやってみないと分からないと思います。

今日は先進的な取組を、事例を交えて聞いたことになるのですが、あらゆる議会が、多分全てを取り組んでいくのは非常に難しいなと思っていますし、行政改革でも、全てをやるのは難しいという風に私は申し上げていますが、やっぱり小さい改革から始めて成果を得て、成功体験を積み重ねていって、スモールステップで始めていく、これが大事なかなと思っています。

あと、今日はですね、色々すごい人がいるとか、こういう人が進めてくれたっていう、なんか人に依存する仕組みの話がメインだったような気がするのですが、やっぱり人じゃなくて、システムでどういう風に対応するかということは今後考えていかないといかないかなと。要は属人化じゃなくてシステム化していく、これが今後の課題かなと思いました。

これが、本日のテーマである「誰もが参画する議会」へですね、近づく第1歩になるかなと思います。本日はありがとうございました。

#### 【大山氏】

はい、出雲さんお願いします。

#### 【出雲氏】

本日はご参加ありがとうございました。またパネルの皆さんから先進事例を中心にお話をお聞かせくださってありがとうございます。

お話を聞いていまして地方自治ですから、非常に多様性があるという、その地域やこれまでの関連などを踏まえてそれぞれの議会が活動してこられて、住民との関係を形成されていることで非常に多様性があるということなのだと思うのですが、その多様性の良さもありながら働きやすさとか、冒頭の女性が参画しやすい議会ということを見ると、ある程度標準化していく必要性もあるのだと思います。

議会標準規則という中で標準化されたものがあると思うのですが、その県議会などはそういったものが標準に基づいて制定されていても、市議会や町村議会などではそういったものになっていないとかですね、そういう標準というところも重要だと思っていて、議会のこれまでの歴史文化を踏まえた慣行と同時に、新たな参入ということ考えた時には働きやすい環境を標準的に整備していくということも重要であるという風に考えています。

そうしたことを議員自身をご検討になりながら、また住民の方、市の行政の方も交えて検討されるということが重要と思っていて、色々参画に関して障壁、難しさがある場合にはどういう風にいつまでということも工程を踏まえて取り除いていくことを検討していく必要があるのではないかと。

そうした、先進事例の取組を取り入れながらも合意形成を得られる範囲でどう実現していくのか、このようなことが重要だという風に認識、勉強させていただきました。ありがとうございました。

### 【大山氏】

はい、では報告者のお三方からも色々言いたりなかったことがあると思いますので、一言ずつお願いいたします。天野さんからどうぞ。

### 【天野氏】

少し2つだけ申し上げて、まとめとさせてもらいたいかなという風に思います。1つは、主権者教育のさっき話があったわけですが、学校のペースを守ってやってくことは大事だと思います。

そこに過度に議会が入って行って、こういう風にしたい、ああいう風にしたいということではなくてお手伝いが議会できますよと、先生方は総合学習とかですね、地域の学習どうされるかっていうのは非常に悩まれているところはありますんで、そこを一緒になってよければやりますよっていうスタイルでやってくことが大事だと思います。ですから年によってはずごくやる学年もあるし、ちょっと今年は控えめだなという学年も正直あります。でもそこは学校のペースに任せていきたいなという風に思ってやってきたというのが、1つです。

とは言ってもですね、中学生で議員と接触しないとですね、うちの村の場合は高校は村内にないので、本当に全然喋ったこともないまま大人になっちゃうわけですね、それを議員とちょっと話して議員も普通の人間だということを知ってもらうためにはやっぱりそういう取組が必要だなという風に思います。

それと色々な取組を宮田でもやってきましたけれども、全てやり方は試行です。最初に試行をしましょうと、ダメだったらやめましょうということで、コンセンサスを取って始めると、そして1年経ってやめるものもあります。

今残ったものは1年経って、あ、これはいい仕組みだから続けようという風になって残っているものですから、そんな形で試行っていうようなスタイルでやらないとですね、やっぱり急進的なことをやろうとするとやっぱり色々意見が出てきますので、お試しでやるということをやればですね、比較的新しいことも理解されるのかなという風なことが6年間議長やって思ったところです。以上です。

### 【大山氏】

はい、菅原さんお願いします。

### 【菅原氏】

はい、本日貴重な機会をいただきまして大変ありがとうございました。この間我々も様々な取り組みを進めてきたところでありますが、その中でも特にですね、取組が薄いというふう感じてきたところが実は住民参画の部分でございまして、市民の関心がない議会は何をしているか分からないといった背景には、やはり議会と市民とつなぐ住民参画の入口がない、あるいは少なかったということがですね、1つの大きな要因で、議会自らがその扉を開いていかなければならないということをこの間強く感じてきたところでございます。

また、やはり議会の魅力と信頼、そして存在感といったことがですね、大変重要だと捉えておりまして、今日もご紹介をさせていただきました、政策提言の取組をはじめとして、議会の見える化ですとか、議員間討議の制度化などに取り組んできたところでありますけれども、まだまだ道半ばだなというふうに感じているところでございますので、今後もさらなる工夫と継続的な努力を重ねてまいりたいなというふうに思っているところでござ

います。

そのようなことで本日は、私も多くの気づきと学びを得ることができましたので、これを持ち帰りましてですね、議会内で共有し、また認識を深め合いながら、議会を身近に感じてもらえる、あるいは関心を持ってもらえるきっかけとなる取組をですね、引き続き丁寧に積み重ねてまいりたいというふうに思っております。

全国の皆さん共に頑張ってみましょう。今日はどうもありがとうございました。

### 【大山氏】

はい、それでは最後安居さんお願いします。

### 【安居氏】

私が考える「誰もが参画できる議会」とは、最後は議員の信念だという風に思っています。

私が議員になった理由の1つは、実は母子家庭だったんですけれども、高校に行っている時に母親が離婚をしました。私学に通っていました。学費どうするって言った時に学校の先生が「修学支援があるから使いなさい」と言ってくれて学校卒業できました。

当時は私も心が折れていまして、「母子家庭だったら就職もできないし」と思って投げやりになっていたところ、高校の先生が「大学に進学した方がいい」と言ってくださって、大学に行くことになりました。私立大学に行くことになりました。ですが、お金がありません。母親が役所に行き、修学資金を借りようと思いました。役所で何を言われたかという、「母子家庭の女の子が、大学、しかも私立なんて行かなくてもいいんじゃないの」と言われて、しょんぼり帰ってまいりました。でも、母親が粘り勝ちをいたしまして、修学支援を受けさせてもらえるようになって、大学に行けて就職もできて、今の私があると思っています。

だからこそ、私は、困っている人をしっかりと救えるのが議員だと思っているし、そういう石川県にならなければいけないと思っています。

だからこそ、住民に議員が頑張れば県も市も町も村も変えられるというところを見せることで、住民が「議会に行って自治体の困ったことを変えよう」という風に思ってもらえるのも実は大事なのではないかなと思っています。

ぜひ議員の皆様、共に国民のため、県民のため、市民のために頑張っていきましょう。今日はありがとうございました。

### 【大山氏】

はい、皆さんありがとうございました。今日のテーマ、誰もが参画できる議会をどうやって実現するかっていうことなのですからけれども、やはり皆さんのお話を伺っていると人の重要性っていうのは絶対ありますよね。

議会がまず開かれて新しい人が入ってくるとますます開かれていくみたいな好循環に入っていくことが大事だと思うのですけれども、その上で先に走っている先進的な議会の事例をどうやって標準化し横展開していくかということが次のステップとして大事なんじゃないかなという風に痛感いたしました。

私も大変参考になるお話を色々伺うことができました。皆さんもフロアの皆さんも是非今日のお話をお持ち帰りいただいて横展開していただければと思います。

本日は短い時間で言いたくないことたくさんあったと思うのですけれども、ご清聴いただきましてありがとうございました。